

平成 20 年 8 月 6 日

会 社 名 **株式会社 CSKホールディングス**
 代表者名 代表取締役社長 福山 義人
 問合せ先 執行役員経理部長 清水 康司
 電話番号 03-6438-3030
 (コード番号 9737 東証 第一部)

平成 21 年 3 月期 第 1 四半期連結決算の要旨

1. 情報サービス事業における売上高は順調に推移し、前年同期比で 3.3%の増収。
2. 金融サービス事業における不動産証券化事業で、上期精算予定の投資案件が第 2 四半期に集中しており、当第 1 四半期は組合に係る費用等の取込みのみとなったこと。
3. 証券事業においては、株式市況の影響により業績が低迷。しかし、取組方針の変更により前第 4 四半期からは回復の兆しが現れてきている。
4. 平成 20 年 8 月 1 日に当社連結子会社のコスモ証券㈱の完全子会社化が完了。証券系ビジネスの事業戦略を具体化し、企業価値の向上を推進する。

● 前年同期比サマリー

(単位:億円)

	2006/6	2007/6	2008/6	前年同期比増減	
	(第1四半期)	(第1四半期)	(第1四半期)	増減額	増減率
売上高	584.9	680.9	511.2	△169.7	△24.9%
営業利益	104.6	175.8	△37.5	△213.4	△121.3%
営業利益率	17.9%	25.8%	△7.3%	△33.2%	-
経常利益	107.3	183.6	△30.0	△213.6	△116.3%
四半期純利益	56.2	131.8	△32.3	△164.1	△124.5%

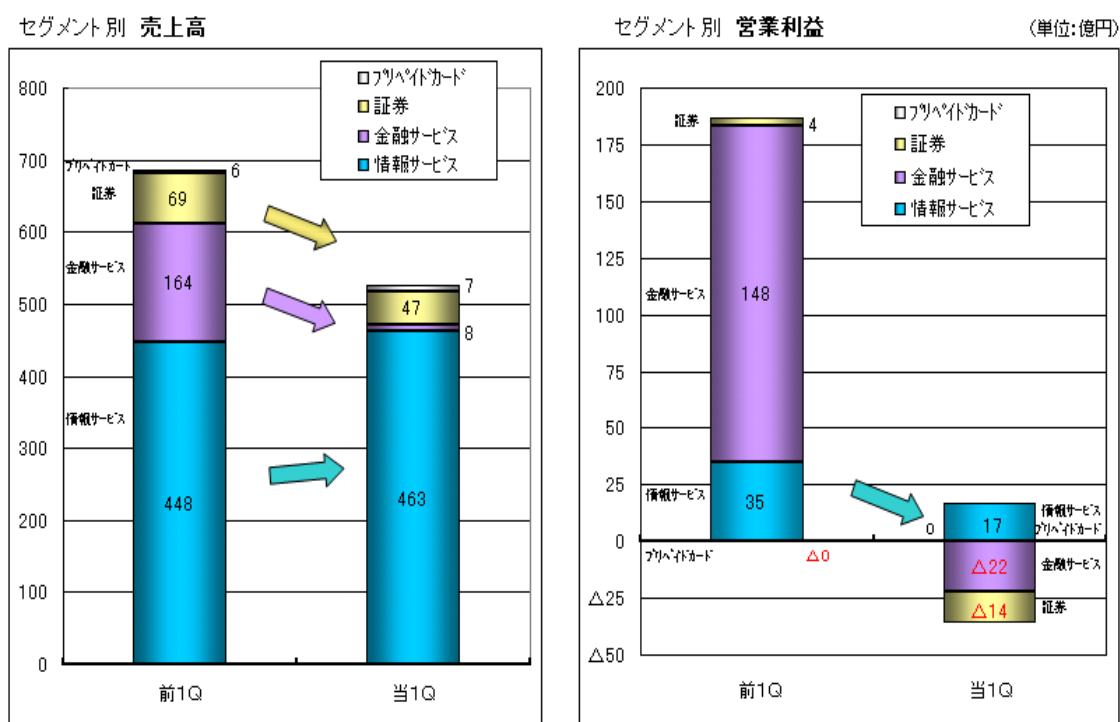
売上高 及び 営業利益：

- ・ 売上高は、情報サービス事業におけるテクノロジーサービスにおいて、金融・保険業界向けのシステム開発が堅調に推移いたしました。前第 1 四半期に金融サービス事業において大型の投資案件の精算があったこと、証券事業においては、株式市況低迷の影響を受けたこと等により 511.2 億円（前年同期比 24.9%減）となりました。
- ・ 営業利益は、売上と同様に前第 1 四半期に金融サービス事業において大型の投資案件の精算があったこと、証券事業において株式市況の低迷による影響を受けたことに加え情報サービス事業における戦略的な事業投資の先行費用やグループ全体の情報基盤整備の為に費用が増加し、全体では営業損失 37.5 億円となりました。

経常利益 及び 四半期純利益：

- ・ 経常利益は、営業損失の要因に加え受取配当金やカード退蔵益等の営業外収入の計上により 30.0 億円の経常損失となりました。
- ・ 四半期純利益は、経常損失の要因に加え、証券事業における金融商品取引責任準備金の戻入益 7.1 億円、事業用資産等の減損 9.2 億円等の影響により、32.3 億円の四半期純損失となりました。

セグメント別 業績（連結）



情報サービス事業

- 売上高は、テクノロジーサービスにおいて主に金融・保険業界向けのシステム開発や、サーバー等のシステム販売が堅調に推移いたしました。ビジネスサービスにおいては、コンタクトセンターや製品検証サービスの売上が減少しておりますが、新規ビジネスとしてフルフィルメントサービスやモバイルビジネスが堅調に推移し、売上全体では、463.5 億円（前年同期比 3.3%増）となりました。
- 営業利益は、テクノロジーサービスにおける戦略的な事業投資における先行費用の増加や、ビジネスサービスにおけるコンタクトセンター及び製品検証サービスの減収による影響で 17.1 億円（同 52.0%減）となりました。

金融サービス事業

- 前第 1 四半期に匿名組合等を通じた不動産証券化事業における大型投資案件の精算があった一方で、当上期精算予定の投資案件が第 2 四半期に集中しており、第 1 四半期は組合に係る費用等の取込みのみとなったことにより、売上高は 8.6 億円（前年同期比 94.7%減）、営業損失 22.7 億円となりました。

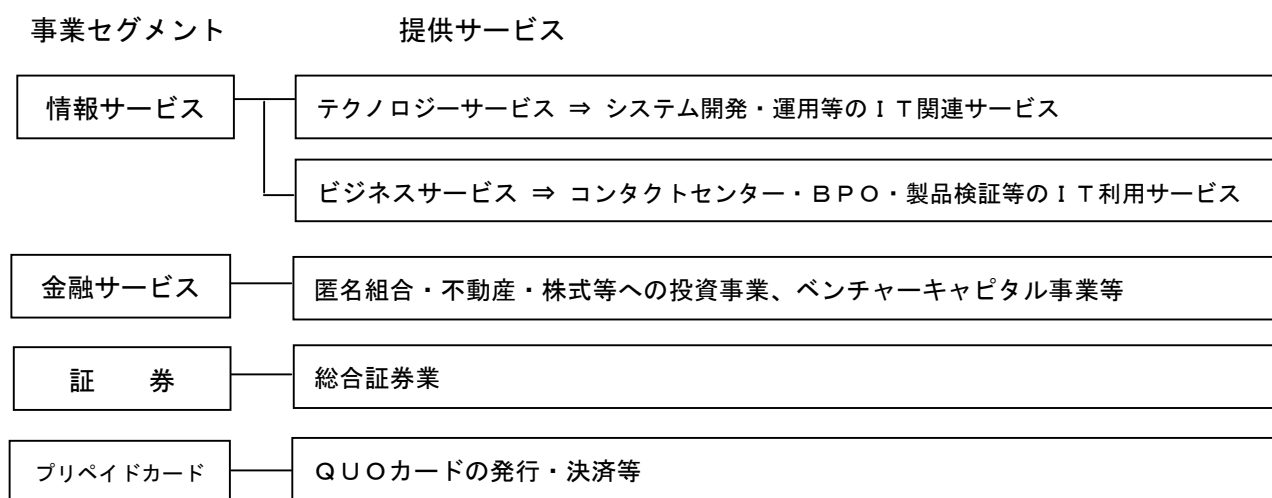
証券事業

- 売上高は、株式市況の低迷による影響で、募集・売出しの取扱手数料及びその他の受入手数料、株式及び債券のトレーディングに係る収益が減少し 47.9 億円（前年同期比 30.7%減）となりました。
- 営業利益は、販売費及び一般管理費における取引関係費や不動産関係費等を削減しておりますが、売上の減収により 14.0 億円の営業損失となりました。

プリペイドカード事業

- 同事業においては、書店・サービス業等の新たな業種への導入を進めており、また株主優待や販売促進ツールとしての販売も拡大しており、ギフトとしてのカード流通量が増加したことにより、売上高は 7.0 億円（前年同期比 2.2%増）となりました。
- 営業利益は、収益性の高いギフト利用が堅調に推移したこと及び経費の圧縮等により 0.6 億円（前第 1 四半期連結会計期間 営業損失 0.0 億円）となりました。なお、営業外収益としてカード退蔵益等を計上しており、当事業に関する経常利益は 3.1 億円（前年同期比 22.9%減）となっております。

《 参 考 》



BPO（Business Process Outsourcing）：業務運用サービス。業務の効率性や品質向上にとどまらず、差別化を推進するために業務を外部委託すること

フルフィルメントサービス：商品の受注から配送までのバックオフィス業務

以上